令和 9 年度入ゼミ用

国際総合学類ゼミシラバス集

令和 9 年度入ゼミ用　国際総合学類ゼミシラバス集 総目次

国際学ゼミナール I, II 担当教員一覧	1
国際政治・国際法分野	2
経済学分野	15
文化・社会開発分野	22
情報・環境分野	27

国際学ゼミナール Ⅰ，ⅠⅠ 担当教員一覧

国際政治・国際法分野	文化・社会開発分野
大倉 沙江 大友 貴史 茅根 由佳 佐藤 麻理絵 Timur DADABAEV Leslie TKACH-KAWASAKI Vindu Mai CHOTANI 外山 文子 潘 亮 東野 篤子 日高 薫 Zia MADANI 吉田 脩	井出 里咲子 寺内 大左 藤澤 奈都穂 松島 みどり 関根 久雄
経済学分野	**情報・環境分野**
柏木 健一 内藤 久裕 中野 優子 Nguyen VUONG Abu Girma MOGES Fatwa RAMDANI	奥島 真一郎 亀山 啓輔 白川 直樹 鈴木 大三 高橋 伸 Simona VASILACHE 藤井 浩光 松原 康介 横田　壮真

※各分野内の教員名は五十音順。

＊シラバスが未掲載のゼミの概要等に関しては、担当教員に問い合わせてください。

国際政治・国際法分野

大倉沙江ゼミ（市民社会論）

筑波大学人文社会系准教授　大倉 沙江

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、政治・政策と社会とのかかわりに興味をもち、政策がどのように形成されているのかを実証的に検証することに関心がある学生を募集します。ゼミでは、日本政治論、政治過程論、市民社会論、フェミニズム、ジェンダー論に関する文献レビューを行います。また、独立論文・卒業論文の進捗状況報告など、ゼミ生による発表も行います。

2. 開講曜時限

- 春AB 金曜3-4時限 春C集中
- 秋AB 金曜3-4時限 秋C集中

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

○履修要件

- 現代日本政治に関する基礎的知識を有すること
- 女性やジェンダーが関わる事柄に関心があること（もしくは関心を深める意欲があること）
- 少なくとも 1 回はオープンゼミに参加すること
- 「市民社会論」あるいは「政治参加論」を履修していることが望ましい

○入ゼミの方法

- 下記の 3 点について A4 用紙 1 枚にまとめて、1 月末までに E-mail で提出してください
  - ① 簡単な自己紹介
  - ② 独立論文で取り組む研究テーマの概要
    - 以下の 3 点について記載があることが望ましい
      - １）研究テーマに関連する先行研究のまとめ
      - ２）先行研究のまとめを踏まえた自分が取り組みたいテーマ
      - ３）研究の方法
  - ③ 3 年次以降に長期の休学・留学予定がある場合は、留学先と期間

○選抜スケジュール

10月～1月末：オープンゼミ＋事前相談（事前にE-mailで連絡をください）
1月末：ゼミ参加希望受付締切日（E-mailで受け付け）
2月中旬：選抜結果連絡

4. その他　（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

- 連絡先：okura.sae.gn@u.tsukuba.ac.jp
- 不明な点は、E-mailで相談をしてください。面談も歓迎します

大友貴史ゼミ（国際関係論）

筑波大学人文社会系准教授　大友　貴史

1. ゼミナールの概要

国際関係論に関する文献を読み、様々な視点から主に国際安全保障に関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くはオリジナル（英語）で読みます。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。ゼミでは積極的な発言が求められますので、事前にしっかり文献を読んで準備することが必要です。

2. 開講曜時限

予定　春AB 水曜 ３・４限
　　秋AB 水曜 ３・４限　秋C（卒論個別指導）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「国際政治学(International Politics)」を履修していること。
入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4 で1枚）を提出。面談（ゼミ見学の際に行う）。これらをもとに選抜します。

10月（ゼミ説明会後）～12月（秋AB最後のゼミ実施日）：ゼミ見学・面談（いずれも事前にメール連絡の上）
2月1日：関心テーマ締切日（ohtomo.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp　までお送り下さい。）
2月15日：この日までに、結果をメールで通知します。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：ohtomo.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp

茅根由佳ゼミ（東南アジア政治）

筑波大学人文社会系准教授　茅根 由佳

1. ゼミナールの概要

主に島国の東南アジア諸国における地域研究や現代政治、社会学研究の代表的な著作、論文（日本語、英語）を読みながら、各国の重要争点（ナショナリズム、ポピュリズム、宗教、社会運動、ジェンダー、地域紛争/テロリズム、移民政策など）に関して理解を深めることを目的とします。

ゼミでの発表を通じてディスカッションを重ねることで自身が関心を持つテーマの知識を深めながら、独立論文、卒業論文作成にむけて準備を進めます。論文執筆の過程では、必要に応じて英語・現地語資料の活用および読解方法等についても助言します。

2.　開講曜時限

春AB 火曜5限

秋AB 火曜5限

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「政治変動論」「アジア政治」を履修していることが望ましいです。

ゼミ履修を希望する学生は、東南アジア政治/社会において関心のあるテーマについてレポートをA4・1枚程度でまとめ、メールにて提出してください。レポートには、関連する先行研究の簡単なレビューを含めてください。

ゼミ説明会後～12月半ば：教員訪問期間（事前にメールで連絡すること）

2月20日：レポート提出締切日

2月25日： 選抜結果通知

4. その他 （例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：kayane.yuka.ga@u.tsukuba.ac.jp

佐藤ゼミ（中東・イスラーム研究室）

筑波大学人文社会系助教　佐藤　麻理絵

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、中東・イスラーム世界の政治や社会について、幅広いテーマを取り上げて皆で議論をします。扱う地域としては主に中東地域を設定していますが、東南・南アジアや北アフリカにまたがるイスラーム世界、あるいは移民や難民などのムスリムを対象にする場合は欧米などが対象地域になる場合も歓迎します。中東地域を含むイスラーム世界で起きている政治的変動や、内戦や紛争、和平へ向けた国際関係、欧州を中心に安全保障化が進む移民・難民事象、テロリズムやイスラーム過激派に関連する社会動態などの様々なテーマを、各自の関心に沿いながら扱います。前期は主に関連文献を選び、輪読を行います。その上で、皆で討論と意見交換を行いながら地域への理解を深めていきます。また、半期に一度を目安に、近郊のモスクなどのイスラーム関連施設へ足を運び、関係者に話を聞くなどのフィールドワークを実施する予定です。後期は主に各自の関心に基づく独立論文及び卒業論文の中間報告を含め、論文執筆への準備を行います。なお、2～4年次の間に「現代中東政治」（佐藤）のクラスを履修するように努めてください。

2.　開講曜時限

春ABおよび秋AB　木曜3・4限
※ゼミ生の時間割も考慮して調整（応相談）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

（１）参加要件：特になし。議論への積極的な参加や、関連文献の購読を自主的に進めるなど意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎します。

（２）入ゼミの方法・選抜スケジュール

・10月（ゼミ説明会後）～12月23日：ゼミ見学・教員訪問期間（事前にメール連絡の上）
・1月31日：関心テーマ締切日（関心のあるテーマについて、抱いている問題意識やその概要などをA4用紙1枚程度にまとめ、佐藤sato.marie.gu@u.tsukuba.ac.jpまでお送りください。）
・2月15日：選抜結果通知

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：sato.marie.gu@u.tsukuba.ac.jp

タック　川﨑　ゼミ
Tkach-Kawasaki Seminar 2027-28

Leslie Tkach-Kawasaki, Professor, Grad. School of Humanities and Social Sciences

Contact information （連絡方法） tkach.kawasaki.l.fp (at) u.tsukuba.ac.jp (at は@)

ゼミナールの概要　/ Introduction

Subject Specification: Political Communication （政治コミュニケーション）, Media and Internet Studies （メディアとインターネット研究）、Internet Research Methodology（インターネット研究方法）, Social Network Analysis （ソーシャル
ネットワークブ分析）、and Content/Thematic Analysis（内容・テーマ分析）. Most students use interviews, content analysis (内容分析), surveys
(アンケート), and similar methodologies.

My seminar is structured in a PBL (problem-based learning) format. The seminar content emphasizes learning how to do research and applying different research methods to issues or problems. By doing so, students can choose appropriate methods to investigate their chosen research topic. 私のゼミはPBL（問題解決型学習）授業のような構成です。ゼミでは、研究の進め方を学び、様々な研究手法を課題や問題に適用することに重点を置いています。これにより、学生は自分の研究テーマを調査することに適切な研究手法を選択できるようになります。

Objective/Description: The seminar is conducted throughout the year and emphasizes practical research design and methodological approaches. 通年、ゼミが集まって、基本的な研究デザインと研究方法を一緒に勉強する.

ゼミ Day/Time:
2026-27 Academic Year: Held on Mondays, Period 5
2027-28 Academic Year: Day/time to be decided in consultation with students.
Seminar delivery: During spring semester, the seminar is held online. During the fall semester, the seminar is held face to face.

Important Points:
1. Readings will be in English and Japanese.（日本語・英語の論文を参考する）
2. You can write your independent thesis (独論) and/or your graduation thesis (卒業論文) in English or Japanese. （日本語または英語で独立論文・卒業論文を書く）
3. Seminar discussion and presentations will be in English and Japanese. （ゼミでのディスカッションは、日本語または英語でおこなう）.

ゼミに入る方法： **(1)** Interview with the instructor and open attendance at ゼミ (Nov./Dec.) (please contact her by email); **(2)** Decision by instructor / student about attending ゼミ in 2027-28 (end Jan.)

必要となる予備知識／Prerequisites: There are no prerequisites, but students should be prepared to learn how to use basic statistical methods (through Excel, SPSS, or R), bring their notebook computers or smartphones to the ゼミ, and be unafraid of making presentations in front of a small group.

テキスト／Textbooks and materials:
Assigned according to students' research topics and interests.

単位取得用件・成績評価基準／Requirements and grading:
Grading is based on ゼミ participation (attendance and actual performance/attitude during the seminar).

卒業論文 (Themes/Examples)	
• "Youtube Beauty Gurus" (2011-12) • 「橋本徹大阪市長に関する報道の内容分析」 (2012-13) • "Relating Media Interactions to Racial Cognition: A Case Study of Malaysia" (2020-21)	• 「海外生活におけるアイデンティティの維持と変容―在独日本人と在日ドイツ人の比較」 (2013-14) • "Branding of Disaster Relief Efforts: A Case Study of the 2011 Japan Earthquake and Tsunami" (2013-14) • 「「萌え」とテロリズムーソーシャルメディアと新聞によるテロリズムの再構築ー(2018-19)

CHOTANI Vindu Mai Seminar (Politics and International Relations in the Indo-Pacific)

CHOTANI Vindu Mai, Assistant Professor, Institute of Human and Social Sciences
チョタニ　ヴィンドゥ　マイ、助教、人文社会系

1. Introduction

The Indo-Pacific region is home to over 50 percent of the world's population (posited to be 65 percent by some) – including the world's most populous countries, India and China. The region has also become the hotbed of U.S.- China contention, and is home to middle powers such as Japan, Australia, Indonesia, Singapore. Amongst many, some key trends from the region include issues related to maritime security, competition with regards to infrastructure and connectivity projects, rising military budgets, climate induced impacts, the politics of gender, cyber security and so on.

The objective of this seminar is to enable students with an interest in the Indo-Pacific to deepen their knowledge and hone their research skills by conducting research on a topic of their interest. I would like students to have a participatory approach where we can have in-depth discussions and debates on books and articles.

My current research project focuses on the Indian Ocean region (IOR), a less studied, albeit important part of the Indo-Pacific. For students interested in maritime security, geopolitics, and infrastructure development in the IOR, please do join my seminar.

Grading: attendance (20%), presentation of research (40%) and participation (40%)

2. Semester, period and venue

Spring AB, Thursday, Period 5 (15:15~16:30) 春AB 木曜5
Autumn AB, Thursday, Period 5 (15:15 ~ 16:30) 秋AB 木曜 5
If needed, we can decide on a new day/ time based on consultation with the students.

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

It is recommended that you take the course "International Relations in the Asia-Pacific" (BC16301)
(1) Please e-mail a memo of the topic you are keen to develop and motivation statement (400-500 words): 10th December
(2) Interview with the instructor: 14th December
(3) Decision by instructor: 12th January

4. Additional information

Contact: chotani.mai.gp@u.tsukuba.ac.jp

外山文子ゼミ（東南アジア政治）

筑波大学人文社会系准教授　外山　文子（とやま　あやこ）

1. ゼミナールの概要/ Introduction

東南アジアの政治や歴史に関する文献を読み、様々な視点から主に東南アジア地域（特に大陸部）における民主化などに関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くは、英語文献を取り上げます（日本語の文献を取り上げることもあります）。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。就活などには配慮いたします。

2. 開講曜時限/Semester, period and venue

予定： 春AB 木曜 ５（15:15 ～17:00）

秋AB 木曜 ５（15:15 ～17:00）

その他、適宜個別に指導を行います。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール/ Prerequisites, how to apply and selection schedule

履修要件：特になし。「アジアの国際関係」を履修しておくとよい。

入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4 で1枚）の提出。面談。

※面談は必須ではないです。

近年、ゼミ生の人数はやや多い傾向にあります（2026年度：3年生と4年生で合計20名）。

人数が多めですので、ゼミ生の間でのディスカッションが盛んです。

【過去の卒論テーマ例】

「日本発スポーツコンテンツの国際展開における光と影―J リーグのアジア戦略を事例に」

「コーヒー産業における貧困の再生産構造と垂直統合型ビジネスモデルの可能性」

「タイの国籍法の変遷―共産主義への対抗から今の目的の考察」

「日本における性的マイノリティの権利保障に関する諸課題」

「日本におけるトランスジェンダーの権利推進と障壁　」など。

10月（ゼミ説明会後）～12月17日：教員訪問（事前にメール連絡の上）※ご希望の方

2月12日（金）：関心テーマ締切日（toyama.ayako.fw@u.tsukuba.ac.jp までお送り下さい）

2月15日（月）：結果をメールで通知します。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）/ **Additional information**

連絡先：toyama.ayako.fw@u.tsukuba.ac.jp

※個別面談をご希望の方は、いつでもお気軽にメールにてご連絡ください。

潘亮ゼミ（日本外交）

筑波大学人文社会系教授　潘　亮

1. ゼミナールの概要

明治以降、今日に至る日本の対外関係の形成過程とその歴史的背景を国際関係史の文脈で議論する。近現代国際社会における日本の位置づけについて独自の理解と発想を養うことを目的とする。具体的な問題関心について、歴史的なものであるという制限を設けないが、昨今の日本の対外関係に関する諸問題を研究する場合、歴史的な背景も意識する広い視野からテーマに取り組む習慣を養成したい。ゼミは外交関係の専門書の講読やフリーディスカッションなどが中心となっている。

2. 開講曜時限

原則的に毎週月曜日 16：45～18：00

3. 履修要件・入ゼミの方法

履修条件：「日本政治」または「現代日本外交史」を履修すること＋日本近現代史と世界史に関する基礎的知識を有すること

入ゼミの方法： 問題関心に関するメモ（A４用紙1 枚）を提出し、それに基づいて面接を受ける。

4. その他 （例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

pan.liang.fp@u.tsukuba.ac.jp

5. ゼミ生選抜日程

10月16日～1月22日：教員訪問期間（要メール連絡）

10月16日～1月22日： ゼミ見学期間（メール連絡の上、参加自由）

1月29日： ゼミ参加表明締切日

1月29日： 選抜結果通知

東野篤子ゼミ（ヨーロッパ国際政治）

筑波大学人文社会系教授　　東野　篤子

1. ゼミナールの概要

欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などを中心としたヨーロッパの国際政治を学ぶ。具体的には、1 学期中に国際政治学全般およびヨーロッパの国際政治に関する代表的な文献を読み、レジュメ報告をもとに討論を行う。2 学期以降は各自の問題意識を養いつつ、独立論文および卒業論文作成に向けた準備をすすめていく。

2.　開講曜時限

火曜2限（ほぼ毎週、お昼休みに食い込んで実施していますので、ご承知おきください。ただし担当者の都合により、開講曜時限が変更となることがあります）

3. 履修要件・入ゼミの方法

- 2026 年度 開講の「ヨーロッパの国際政治」および「ヨーロッパ政治」の両方を履修・単位取得済みであり、かつ成績が B 以上であった人を優先的に採用します。
- ゼミでは ヨーロッパの国際政治、EU 、NATO 関連の文献を大量に読み込む予定です。課された文献をすべて真面目に読み、積極的に討論に参加する意思のある学生の皆さんの参加を歓迎します。読書が苦手な方は、このゼミには向かないでしょう。
- 2027 年度 選抜スケジュールは以下の通り。
  - ✧ ゼミ説明会開始後から11月末まで：Teamsによるオープンゼミ参加希望募集（完全予約制。希望した日時に参加できないこともあります）
  - ✧ 12 月 16 日 ： 教員へのゼミ参加希望表明締切日
  - ✧ 12 月 16 日-1 月 10 日 ：関心のあるヨーロッパ国際関係のテーマにつき、A4 1 枚にまとめたレポートを教員までメール送付。さらに、必要に応じて面談を実施。
  - ✧ 2 月末までに順次合否通知

4. その他

連絡先：higashino.atsuko.fa@u.tsukuba.ac.jp

日高薫ゼミ（国際政治学）

筑波大学人文社会系助教　日高　薫

1. ゼミナールの概要

・国際的な政治現象を理論的・体系的に分析できるようになることを目指すゼミです。
・国際政治学に関する書籍・論文（英語もしくは日本語）の輪読と、発表・ディスカッションを通じて、独立論文・卒業論文作成の準備を行います。国際政治に関する知識の習得だけでなく、文献のクリティカルな読み方やアカデミックな議論の仕方、研究の進め方、学術論文の書き方について実践的に学んでいきます。
・戦争、同盟、内戦、テロリズム、民主主義、人権、NGOなどの幅広いイシューを扱う予定です。

2.　開講曜時限

予定　春AB・秋AB：火曜３－４限
※ゼミ生の時間割も考慮して調整予定（応相談）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：特になし。研究に主体的に取り組める、意欲的な人を歓迎します。希望者が多い場合には選考の結果お断りする場合があります。
入ゼミの方法：
①教員との面談（事前にメール連絡すること）
②面談に基づいて関心のあるテーマについてのメモ（A4で1-2枚程度）をメール提出
ゼミ見学：参加自由（事前にメール連絡すること）
他ゼミとの併願：
併願応募も可能。面談の際に相談してください。なるべく柔軟に対応しますが、基本的には第一希望・単願を優先します。
スケジュール：
10月（ゼミ説明会後）～：ゼミ見学・面談
1月7日：メモ提出の締切り
1月14日まで：結果通知

※留学等の事情で上記スケジュールに対応できない場合は個別に連絡してください。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：hidaka.kaoru.gf@u.tsukuba.ac.jp
不明点や質問・相談があれば気軽に連絡してください。

MADANI Zia Seminar (Topics in International Law)

Seyed Ziaeddin MADANI, Assistant Professor, Institute of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

International law is an evolving body of rules and norms that governs relations between states, international organizations, and increasingly, non-state actors. In a globalized world marked by rapid political, economic, climatic, and technological changes, international law needs to continuously adapt to address new challenges and opportunities. This course, *Topics in International Law*, explores the most recent legal trends, cases, and governance developments that are reshaping the international legal landscape.

Throughout the course, we will critically examine contemporary issues such as climate change and environmental law, humanitarian law challenges, AI and other emerging technologies governance, international institutions, human rights protections, and the role of international courts and tribunals in resolving disputes. Through engaging with key legal instruments, landmark case law, and theoretical perspectives, students will gain a deep understanding of the dynamic nature of international law and its implications for global governance. This course will combine lectures, class discussions, case studies presented by students, and research projects aiming to equip students with the analytical tools necessary to critically assess current legal issues and to understand the evolving role of international law in addressing global challenges. Through this course, students will not only engage with the practical application of international legal principles but also reflect on the broader impact of these developments on state sovereignty, global justice, and international cooperation.

Grading: attendance (20%), presentation (40%) and engagement/participation in the discussion (40%)

2. Semester, period and venue

Fall ABC, Fridays, Period 2

Spring ABC, Fridays, Period 2

Venue: TBD

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

1- It is recommended but not mandatory that student take “Introduction to International Law”, “International Humanitarian Law”, “International Environmental Law”or/and “International Law of the Sea”

2- This Seminar will be conducted in English. Students will each be assigned case studies to research and present in the class. The Seminar discussion and presentations as well as the thesis will also be in English.

3- To apply, write an expression of interest email within OCT-NOV (as well as any questions, requests, etc.) to the instructor at the following email address. madani.ziaeddin.gp@u.tsukuba.ac.jp by December 1st the latest. The final decision regarding acceptance/rejection will be announced by mid-December.

4. Additional information

Contact: madani.ziaeddin.gp@u.tsukuba.ac.jp

国際法ゼミ（国際学ゼミナールⅠ）

筑波大学人文社会系教授　吉田　脩

人文社会系　吉田　脩（国際総合学類）

国際法専攻における本ゼミは、国際法の全般について幅広く学ぶことを目的としています。また、原則として、「独立論文」を執筆していただきます。春学期には国際法の基礎を学び、秋学期にはゼミ生による発表・報告を中心に展開する予定です。「国際学ゼミナールⅠ」（国際法ゼミⅠ）及び「独立論文」の成績が良好であったゼミ生には、引き続き、「国際学ゼミナールⅡ」（国際法ゼミⅡ）を履修いただき、また、国際法のトピックで卒業論文にも取り組むこととなります。

１．対象者

国際総合学類3年次生（2027年度時点）又は同2年次の早期卒業予定者。

２．応募の要件

「国際法概論」及び「国際法Ⅱ」の既修者に限る（※「国際法Ⅱ」については、履修中である学類生の応募も認める）。国際裁判所の判決原文は仏文であることが多く、また、学問分野の性質上、英米等の諸学説や国家慣行の考察に偏ることなく、ほかの言語も扱うことが望ましいので、将来的には、フランス語やドイツ語を解することが期待される。

本ゼミは国際法ゼミと直接ないし間接に関係する諸活動（OB/OG講演会等）も一定程度に付随し、これらも正規履修の一貫として位置づけられます。例えば、ご自身が加盟する部活やサークル活動やとの調整等が必要な場合には、国際法ゼミの勉学ないし諸研究活動が優先されますので、応募の前に、自分の大学生活にとっては不適合でないか否か等、ご検討願います。（※財政的なご事情でアルバイト等の負担が比較的大きいという方については、別途改めて検討します。）

３．応募方法等

○応募の事前相談：第1次審査に応募いただく前に、Zoomによる面談を実施します。
第1次審査への応募を検討している学生は、11月27日（金）までに、面談の日程調整のため、ご相談ください。
○第1次審査：上記の面談の後、応募様式をお渡ししますので、面談時に指定される期限までにご提出ください。
○第2次審査：第1次審査の合格者を対象に、12月末までにゼミ面談を実施します。

４．その他

2028年度に関しては、在外研究やサバティカル等により、ゼミの活動が縮小されることがあるかもしれませんが、その場合には、改めてご相談いたします。

経済学分野

柏木ゼミ（中東・北アフリカ経済研究）

筑波大学人文社会系教授　柏木　健一

1. ゼミナールの概要

本ゼミは，発展途上地域の社会・経済に興味のある学生を対象とする。また，研究のアプローチとしては開発経済学の枠組による経済分析を中心とする。発展途上国の中でも特に、中東・北アフリカ諸国の経済発展，構造変化，社会変容，制度変化等をよりミクロな視点から分析することで，同地域の経済発展・安定のメカニズムを検証する作業を進めたい。ただし、参加者の問題意識，関心等に沿った幅広いゼミを展開する。本ゼミでは，具体的には，①開発経済学や中東・北アフリカの経済に関する書籍，論文等を読み，討論，意見交換等を行うこと，②独立論文・卒業論文の中間報告，議論等を行うことを通じて，学生自身が中東・北アフリカの経済研究に関する問題を設定し，数量的データを用いた実証分析を通して，課題解決の具体的提案ができる能力を養うことを目指す。

2. 開講曜時限

春ABCおよび秋ABC：金曜日昼休みと3時限 11:30-13:30

3. 履修要件・入ゼミの方法

（１）必要となる予備知識：「北アフリカの経済と社会」「国際開発論」を履修していることが望ましい。また，数量的分析ができるこが望ましい。参考書等を自分で読んで自主学習を進めるなど意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎する。

（２）参加要件：特に定めない。ゼミ参加を希望する場合，2027年1月29日（金）までに，①から③を含めて，A4×1枚にまとめて，emailで提出すること。

①独論で取り組む研究に関する問題意識とその概要

②3年次以降に長期の休学・留学予定の有無

③3年次までに履修した（している）経済系の科目名

4. その他

（１）実施形式：書籍・論文等のレビュー，独立論文・卒業論文の進捗状況報告等

（２）出席：ゼミは原則として毎回出席とし，議論への積極的な参加を期待する。

（３）単位取得用件・成績評価基準：出席と発表によるゼミへの参画度によって評価する。

（４）テキスト：主な参考書として以下の文献をあげる。その他，適宜紹介する。

Cammett, M., I. Diwan, A. Richards and J. Waterbury (2015), *A Political Economy of the Middle East*, fourth edition, Westview Press.

Todaro, M.P. and S. Smith (2020), *Economic Development*, 13th edition, Addison Wesley.

Wooldridge, J.M. (2018) *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 6th edition.

大塚啓二郎（2023）『革新と発展の開発経済学』東洋経済.

高橋和志・樋口裕城・牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣ブックス.

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮（2019）『計量経済学』有斐閣.

山形辰史（2023）『入門 開発経済学』中公新書2743

（５）連絡先：kashiwagi.kenichi.fn@u.tsukuba.ac.jp 内線：2011, 6010, 3982

（６）関連URL：http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000278

http://arenatsukuba.wordpress.com/

内藤ゼミ（データを基にしたサステイナブルスタディ）

筑波大学人文社会系教授　内藤　久裕

1. ゼミナールの概要

内藤ゼミでは、気候変動、水資源の枯渇、森林伐採、地球環境の変化が、社会・経済・人間の生活にどのような影響をあたえるか、気候変動がシリアからヨーロッパへの大量移民を引き起こしたような気候難民をこれからも引き起こすか、経済活動や人間の活動が森林伐採、水資源にどのような影響を与え、それがどのように社会に返ってくるか、グローバライゼーションと開発の関係、経済開発の諸問題、移民と経済発展を研究します。使うツールは、経済学、データサイエンス、計量経済学、衛星データと最新の技術を学びます。大学でスキルを身に付け、社会に貢献したい、社会を変える何かをしたいという人を特に募集します。大学院で、開発環境経済学、データサイエンス、リモートセンシングを勉強したい人も募集しています。私自身はdata science sustainable studiesという研究分野を立ち上げようとしています。この分野に関心のある人も募集します。

２０２３年の１２月から３月末までと４月７日から７月第２週まで、毎週サブゼミとして統計学、計量経済学、データサイエンスの勉強をおこないます。これは、統計学を学んでない人も含めて、統計学、計量経済学、GIS、リモートセンシングを１から勉強するものです。

2. 開講曜時限

月曜日５時間目

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

サブゼミに参加できない人は応募しないでください。履修条件、入ゼミ面接に関してはホームページを見てください。

4. その他　（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

http://www.dpipe.tsukuba.ac.jp/~naito/teaching_web/seminar/seminar_annoucement2024.htm

中野優子ゼミ（開発経済学・ミクロ実証経済学）木曜4－5限

筑波大学人文社会系教授　中野優子

私は、途上国の人たちがどうすれば貧困から脱け出せるかを考える開発経済学という分野を専門にしています。主にサブサハラ・アフリカの農業を対象としたミクロ実証分析が専門です。（詳細は教員個人HPを参照。）ゼミでは、サブサハラ・アフリカに限らず、途上国の開発問題、日本の社会問題を経済学に基づいて分析します。
https://www.yukonakano.net/index.html

活動内容

1）　開発経済学・実証経済学のテキストのレポーター形式の輪読および討論　（春学期）
例: 大塚啓二郎（2023）『革新と発展の開発経済学』東洋経済新報社
De Janvry, A. and Sadoulet, E.（2016）“Development Economics: Theory and Practice”. Routledge, London and New York.

2）独立論文および卒業論文の報告と指導　（秋学期）

3）夏季集中ゼミ（1日）

入ゼミ条件

- 「開発途上国における諸問題」を履修済み、あるいは入ゼミ後に必ず履修すること。
- ゼミ見学は適宜行っています。見学を希望する場合は担当教員にメールして下さい。
- 主ゼミ生としての受け入れは 5 名程度の予定です。希望者多数の場合は、レポート、面接、成績、および担当教員の専門分野との適合性に基づいて選考を行います。
- サブゼミ生としての受け入れも行います。サブゼミ生はゼミに参加し、論文についてもゼミ発表での口頭での指導は行いますが、論文執筆の添削は行いません。
- 入ゼミ希望者は、志望動機と発展途上国の開発（または自分の卒業論文のトピック）に関するレポートを 2027 年 1 月 11 日までにメール nakano.yuko.fn[at]u.tsukuba.ac.jp [atを@に置き換え]までに提出して下さい。追って、面談日時を連絡します。その際に成績表を持参して下さい。
- ゼミには毎週参加することと、入ゼミ前後に「開発途上国における諸問題」、「計量経済学」およびその他の関連授業を積極的に履修し、経済学的な考え方を身に着けることを入ゼミの条件とします。途上国の開発問題及び日本の社会問題に興味のある、意欲ある学生の参加を歓迎します。

DEER Seminar (Selected Topics in Applied Microeconomics)

VUONG Dinh Tuan Nguyen, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

The DEER (Development and Environmental Economics Research) Seminar is designed to equip students with effective strategies and approaches in applied microeconomics, with a particular focus on environmental issues in developing countries. The seminar will cover three main topics: (i) evaluating the economic impact of environmental changes, (ii) exploring the environmental externalities of economic development, and (iii) analyzing public policy. At the beginning of the course, the instructor will provide a reading list, and no specific textbook is required.

Students participating in the seminar will be expected to present papers from the reading list. The instructor will deliver lectures as needed to enhance the learning experience. Grades will be determined based on attendance (20%), presentation (30%), and a research proposal (50%). Evaluation criteria will focus on the quality of literature reviews and the feasibility of the proposed research. Students are encouraged to meet with the instructor outside of seminar sessions to discuss their research ideas.

2. Semester, period and venue

Semester: Spring and Fall.
Time: To be determined.
Venue: To be determined.

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

Prerequisites:

- Statistics (BC51181 or equivalence) or Econometrics (BC12061 or equivalence),
- Development Economics (BC12731 or equivalence) or Public Economics (BC11751 or equivalence) or Intermediate Microeconomics (BC11861 or equivalence).

Selection schedule:
Oct 20 - Dec 10: Contact the instructor by email and arrange an appointment.
Dec 15: Deadline for applications by e-mail.
Dec 16 - Feb 1: Selection period by the instructor.
Feb 2: Notification of selection results

4. Additional information

Email: vuong.nguyen.ge@u.tsukuba.ac.jp
Office: Humanities and Social Sciences Building A306

MOGES Seminar in Development Economics & Policies

MOGES Abu Girma, Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

Course Description: This seminar explores the issues of economic growth, income distribution, economic policy, income inequality, poverty, social wellbeing and vulnerability from an interrelated perspective. Emphasis will be made on specific topics on the basis of research topics of students. The process and challenges of economic development are discussed with historical and contemporary contexts. Students will have opportunities to examine the different and competing theories of economic development and their economic policy recommendations to address pressing economic, social and political problems in developing countries.

Objective: The main objective of the seminar is to equip students with the analytical skills and research methods in development economics and policy issues. The seminar discusses theories, policies, and country experiences to understand major issues in development economics and policy.

Approach: This seminar emphasizes on participatory approach of students in which selected economic development issue in developing and developed countries are discussed. The seminar involves extensive reading and discussion so as to expose students to diverse ideas and methodologies. It also helps students prepare themselves to conduct research on issues of their choice.

Contact Information and Seminar Room: Please contact the teacher by e-mail to express interest to join the seminar. Screening, interview and decision follow afterwards.

Venue: Seminar Room 1C402

Date &Time: Wednesdays 16:45 ~ 18:00pm

Seminar Recruitment season for 2026-2027:

If you are interested to join the seminar,
please contact me by e-mail at agmoges@gmail.com.
The deadline for expression of interest is December 15, 2026. Decision for acceptance will be announced by early February, 2027

Ramdani Seminar (GISS for Social Sciences)

Fatwa Ramdani, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

This seminar is designed to help you enhance your understanding and interest in using cutting-edge technology to address contemporary societal challenges. Throughout the course, we will explore numerous papers, books, and reports that have effectively tackled social issues using Geographic Information Systems and Science (GISS). You will gain hands-on experience with tools such as QGIS, Google Earth Engine (GEE), and RStudio, working with diverse geospatial datasets. Additionally, if needed, we will provide instruction on utilizing high-precision Global Positioning System (GPS) equipment.

Moreover, a crucial aspect of scientific work lies in effectively disseminating results. Therefore, this seminar will also cover the art of crafting high-quality research theses, scientific articles, and even articles geared towards a broader audience.

For this course, there are no specific textbooks or required references. Students who haven't chosen research topics yet will receive a list of papers from which they can select their presentation material. Undergraduate, master's, and doctoral students who already have research topics must present their theses related to GISS.

2. Semester, period and venue

The seminar will take place online using MS Teams (access code: kxcy29g) during both the Spring and Fall semesters. It is scheduled for Tuesdays during the 4th period, which runs from 13:45 to 15:00. However, we are open to adjusting the timing if needed after discussing it with the students. Your grade for the seminar will be determined by your active participation in the sessions.

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

There are no prerequisites for attending the seminar. Here is the schedule for student selection:
October 15th to November 15th: Contact the instructor and visit the seminar. Please make sure to contact us in advance via email.
November 15th to December 15th: The seminar is open for attendance.
December 25th: Application deadline via email.
December 25th to February 1st: Instructor-led selection period.
February 2nd: Notification of selection results.
To apply, please send an email to: fatwa.ramdani.gw@u.tsukuba.ac.jp.

4. Additional information

Students interested to join the seminar may visit my office at 3K314, from 13:00 to 15:00 on a weekday.

文化・社会開発分野

ことばと文化ゼミ（井出ゼミ）

筑波大学人文社会系教授　井出　里咲子

1. ゼミナールの概要

ことばと文化ゼミでは、言語人類学や社会言語学の理論と方法論を学びながら、ことばやコミュニケーションを切り口として異文化理解、そして現代社会の問題を考える手法を、主にディスコース分析を中心に学びます。たとえば、我々が普段何気なく行っている会話やメールのやり取りにみられる人間関係の構築や交渉、メディアの言説に隠された偏見といったテーマまで、社会的な文脈において意味を成すことばを介して実践しているもの全てが研究対象となります。一方、国際総合学類には当該分野のカリキュラムとしての積み重ねがないので、このゼミでは独学でさまざまな手法を学ぶ覚悟が求められます。

ゼミでは春・秋学期を通して、各自の論文のテーマの選定、フィールド調査やデータ分析の実施、論文の執筆を行いますが、その他に専門知識や方法論を学ぶための文献購読と発表も随時行います。不定期ながらゼミプロジェクトを実施することもあります。過去には「ギャル系雑誌のテキスト分析」、「震災体験の語りの収集と分析」、「つくば市HPの＜やさしい日本語化＞への提言作成」、「人狼ゲーム のビデオ録画と分析」「#BlackLivesMatter運動でのスピーチの文字化と分析」等を行いました。

過去の卒論テーマには、「タイ社会の名付けとあだ名」、「留学生・日本人チューター間の LINEやりとりにみる関係性の変化とコミュニケーション方略」、「プロ野球の応援歌にみる日本の応援文化とその特徴」、「他言語防災情報発信の批判的研究う」などがあります。

言語文化への関心と問い、また／もしくは、具体的な研究テーマが当ゼミと合致しているかが選考のポイントとなります。尚、2〜4年次の間に「言語人類学」（井出）、人文学類の高木智世先生、日日の澤田浩子先生のクラスなどを履修するように努めてください。

その他詳細はhttps://ide-risako.jp/seminar/で確認してください。

2. 開講曜時限

(1) 「春 AB」＋集中「春 C」(夏合宿)

(2) 「秋 AB」＋＋集中「秋 C」(個別面談指導と発表会)

火曜の４時限に人文社会棟内で、対面方式で実施します。

3. 履修要件・入ゼミの方法

(1) ゼミ体験：12月末まで。メール（ide.risako.gm@u.tsukuba.ac.jp）に連絡の上、体験しにきてください(授業が重なる場合は井出に面談してください・面談アポの取り方は４.を参照)。

(2) 12月 25日締め切り：入ゼミ希望者は、①自己紹介と参加動機、②二年間をかけて取り組みたい研究テーマを①②別々に A4１，2枚に記したレポートを井出宛て送ってください。1月上旬までにゼミ生を 5 名程度選抜し、メールで連絡をします。志願者が多い場合は面談をします。

(3) 新ゼミ生は 2 月初旬開催の「ことばと文化ゼミ卒論・独論公開発表会」に参加してください。

4. その他

面談は、オンラインまたは人社棟B501の井出研究室にて実施します。アポを取る際はメールでご相談ください。

環境の人類学・社会学ゼミ

筑波大学人文社会系准教授　寺内　大左

1. ゼミナールの概要

このゼミでは、環境に関する人類学・社会学について学びます。文献購読を通して理論や方法を学ぶと同時に、フィールドワークを実施し、環境と社会の共生のあり方、環境保全や開発のあり方を検討します。環境に関する人類学・社会学では多様なテーマが研究対象になります。どのようなテーマが対象になるのか知りたい人は、鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房（https://www.minervashobo.co.jp/book/b284588.html）の「目次」を見るようにしてください。この目次にあるようなテーマで研究したい学生を歓迎します。研究対象地は国内であっても、海外であっても構いません。ゼミの時間では、基礎文献の輪読、グループワーク、各自の文献調査・フィールド調査の結果発表と議論を行います。文献調査・フィールド調査はゼミの時間外に各自で行ってもらいます。夏休み、春休みにもフィールド調査を行ってもらいます。

2.　開講曜時限

研究発表ゼミ：春ABC：木曜15:15～17:45頃。基本対面、状況に応じてオンラインで実施
研究発表ゼミ：秋ABC：木曜15:15～18:45頃。基本対面、状況に応じてオンラインで実施
輪読ゼミ：春ABC：水曜16:00～17:15頃。基本対面、状況に応じてオンラインで実施

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件

履修要件は特にありませんが、フィールドワークを行いたい人／行える人が基本となります。フィールドに一人で赴き、一から現場の人々と関係を築くことができなければなりません。コミュニケーション能力や社会的常識（礼儀、メールのやり取りのマナーなど）が求められます。

入ゼミの方法

2025年度の新3年生を5名程度受け入れます。入ゼミの方法は以下の通りです。

(1)　寺内ゼミ個別説明会に参加（オンライン開催、チームコード：xu9be2j）

11月11日17:00までにチームコードを入力し、登録してください。

11月18日11:30～12:10に説明会を実施します。参加できない人は録画視聴でも構いません。

注意：チームコードを入力し、登録しないと録画視聴できません。登録を忘れずに。

(2)　入ゼミ希望書の提出

A4紙2枚以内に次の1～5を書き、2027年1月15日（金）に教員にメールで送ってください（メールの件名は「入ゼミ希望」とすること）。参加申し込みの受付はこの日のみです。

1. 本ゼミを希望する理由（300～500文字）と研究テーマの概要（1400～1700文字）
2. 2年次までの「文化・開発論」「国際文化論」「環境人類学」の履修の有無
3. 3年次、4年次に長期の休学・留学を予定しているか否か
4. 本ゼミだけを希望する「単願」か、他のゼミも希望する「併願」か
5. 博士前期課程（修士課程）に進学する可能性があるか否か

選抜スケジュール

2027年1月22日（金）までに教員が受入可否の結果をメールで通知します。単願者・大学院進学希望者を優先的に受け入れます。また、参加許可のメールに対して期日までに反応がなかった場合、キャンセル扱いとします。

4. その他　教員連絡先：寺内大左（terauchi.daisuke.gt[at]u.tsukuba.ac.jp[at]を@に変える）

森林文化ゼミ

筑波大学人文社会系助教　藤澤　奈都穂

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、農村、森林の持続的な資源利用に関心を持つ学生を対象としています。教員はラテンアメリカの熱帯地域農村を対象として研究していますが、学生の興味によって対象地域は日本や他の地域でもかまいません。

特に、地域社会の資源利用の実態から自然環境と生業や文化のかかわりを明らかにすること、そのようなローカルの実践と、政策や市場といった大きなレベルの動きの連動を明らかにしながら持続的な資源利用を検討することを目的とします。アグロフォレストリー、里山、生物多様性、在来農業、社会生態系、市場メカニズム、フェアトレード、食料主権などがキーワードです。

ゼミでは、文献レビュー（日本語、英語の文献）により、社会と資源のつながりのとらえ方を学びます。並行して研究計画の作成、フィールドワークによるデータ収集、解析、執筆を行います。これらの作業を個々の必要に応じて往復しながら進捗状況を共有し、研究を進めていきます。毎回ゼミ生による発表が中心となります。

地域の資源利用の実態を明らかにするためには、インタビュー、実測、観察、資料、統計の利用など、フィールドワークをはじめとしながら、研究に応じて様々な手法を組み合わせます。

自主的に文献を読み学び、研究を進める姿勢がある学生を受け入れます。

2.　開講曜時限

毎週金曜日9:00-11:25（都合により、開講曜日・時間が変更になることがあります）
原則対面実施
ゼミの後に、任意参加で毎週農場(T-PIRC農場）で作業を実施します。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

- 10 月～12 月 11 日 メールで以下の内容を A4 で 1-2 ページ程度にまとめて送付の上、面談の時間を調整してください。
  - 取り組みたい研究テーマの概要と選んだ理由、テーマとの個人的なかかわり
  - テーマに関連して読んだ文献と、読みたい文献のリスト
  - 想定している研究の方法（簡単に）
  - 興味に関連するキーワード３つ程度
  - 留学と卒業の予定年度
- 12 月 18 日 入ゼミ希望の場合、この日までにメールにて正式に希望を送付してください。
- 12 月 25 日 面談と研究テーマのゼミとの適合性に基づいて可否判断をし、この日までに連絡します。最大5名程度を受け入れる予定です。

4. その他　（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

e-mail: fujisawa.natsuho.gn@u.tsukuba.ac.jp

社会開発実証研究ゼミ（松島みどり）

筑波大学人文社会系教授　松島　みどり

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、社会開発の範囲として扱われるテーマのうち、特に人々のウェル・ビーイングに関わる分野について社会政策や制度がどのように影響を与えているかを、研究対象となる人々が生きている社会環境、文化を鑑みた上で定量的に分析することに興味をもつ学生を募集します。ゼミ は、論文レビュー、論文の進捗状況報告等のゼミ生の発表をもとにしたディスカッション形式で実施します。

2. 開講曜時限

春 AB+秋 AB+集中　（木曜日10時～12時10分）

※ただし、ゼミ生の時間割を勘案（要相談）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：以下を満たしていることが条件となります。

(1) 統計学を学んでいる、または今後学ぶことに抵抗がないこと（入ゼミ時点では、特に統計学の知識はなくても問題はありません。）

(2) 主体性を持って取り組めること

入ゼミの方法：

1. 面談（オンラインも可）にお越し下さい（メールにてアポイントを取ってください）
2. 面談を行った上で，以下の2点についてA4 2枚以内でまとめ、E-mailにて提出してください（メールの件名は「2027年度入ゼミ希望」としてください）。

(1) 現在興味をもっている研究テーマについてまとめたもの（英語でも日本語でも構いません）。

(2) 簡単なご自身の紹介と、今後休学や留学の予定がある場合は、留学先と期間を明記

※　面談は，みなさんのニーズとゼミ内容の不一致を防ぐためのものですので，出来る限りお越し下さい。ただし，留学などの理由で面談が不可能な場合には，その旨ご相談ください。

選抜スケジュール：

10 月～12月10日：面談等受付

12 月17日：ゼミ参加希望受付締め切り(E-mailにて受付け)

12月24日：選抜結果連絡

4. その他

E-mailアドレス：matsushima.midori.gb@u.tsukuba.ac.jp

ゼミ選択のための情報として、担当教員の研究業績などその他の知りたいことがある場合は、その旨、E-mailにて連絡してください。

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）

筑波大学人文社会系教授　関根 久雄

1. ゼミナールの概要

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）は、途上国に対する開発援助、国内外における社会開発・地域振興、国際交流の分野に人類学的視点からアプローチし、その現象の意味やより「効果的な」開発、交流とは何かなど、「文化」の視点を加味した開発、援助、国際交流のあるべき方向性について考えます。

2. 開講曜時限

(1)春AB、秋AB：火曜　6 限～19:00 頃まで。
(2)春C 集中（7 月前半）＋秋C 集中（12 月後半）

3. 履修要件・入ゼミの方法

本ゼミ担当教員（関根）は2027年度末（2028年3月）をもって定年退職します。したがって、新3年生を受け入れても卒業まで指導ができないため、新規のゼミ生募集、受け入れを行いません。

4. 選考スケジュール

募集を行いません。

問い合わせ：関根久雄（sekine.hisao.gm@u.tsukuba.ac.jp）
ゼミウェブページ：https://www.u.tsukuba.ac.jp/~sekine.hisao.gm/jugyo/zemi.htm

情報・環境分野

奥島ゼミ（環境・エネルギー経済学、環境倫理）

筑波大学システム情報系社会工学域 教授　奥島 真一郎（okushima@sk.tsukuba.ac.jp）

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、経済、環境、エネルギー、政策分析に関わるテーマを主題とします。担当教員は環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理、エネルギー・気候倫理などが専門ですが、環境や経済に関わる他の分野でもＯＫです。

ゼミでは、「教養」と「専門性」双方の涵養を目指します。前者については、①新聞等を用いた時事問題に関するディスカッション、②社会科学の古典の講義・輪読、また後者については、③環境・エネルギー問題に関連する書籍・論文を用いたディスカッション、④プロジェクト研究、などを予定しています。本ゼミにおいては、なるべく早い時期から、自ら関心があるテーマを決定し、具体的な調査・研究を進めていくことを目標とします。現代社会において必須である、プレゼンテーション技術（説得 技術）の育成も重視します。

大学生活は 1 分 1 秒が貴重であり、人生の中で文字通り“invaluable”な時期だと考えますが、大学時代にゼミ等で「自ら学ぶ習慣」、「自ら考える習慣」を身につけることは、今後の長い人生において極めて重要であると考えます。このような問題意識から、本ゼミでは、教養と専門性を兼備した、真に主体性のある人間を目標に、共に切磋琢磨したいと考えています。そのため、自ら問題意識をもった、受身でない、意欲的な人材を歓迎します。

2. 開講曜時限

春 AB、秋 AB

火曜日または木曜日の５時限、６時限（その年のゼミ生の都合により調整可）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

ゼミ参加者に期待する要件としては、上述の観点から、第一に①主体性、意欲、そして②関連分野の基礎知識があげられます。さらに、思想的なことに関心があること、物事を多面的に考えることができる人を一層歓迎します。もちろん、担当教員の授業をすでに受けていることが望ましいのはいうまでもありません。それは授業が、担当教員の学問的関心や雰囲気を知るための最も良い機会だからです。

人数は、各学年 3 名程度を予定しています。理由は、ゼミにおける学生の主体性を保証するためにはこのぐらいの人数が限界だと考えるからです。

選抜方法は、原則として、ゼミ見学、面談の上、課題レポート等による選抜、とします。具体的な手順としては、2 年次 10 月のゼミ説明会の後、①e-mail 等によるゼミ見学会参加 ・ 担当教員との面談の予約（11 月中旬まで）、②ゼミ見学会参加（11 月中旬）後、課題提出（12 月初旬）、担当教員 ・ ゼミ生との最終面談（12 月中旬）、③選抜の結果ＯＫ、④正式な参加申請（12 月末まで）、⑤担当教員による内定（12 月末）、となります。詳しくは、2 年次 10 月の国際総合学類ゼミ説明会で説明します。

4. ゼミＯＧＯＢからの声

本ゼミで過ごした数年間は、卒業後に進学した University of California, Davis 大学院や現在の職場であるタタ財団（Tata Trusts）で活躍するための土台を築いてくれました。時事問題についてのディスカッションと古典の輪読を通じて幅広い教養が身につくとともに、長期的な視点から現代の環境問題、社会問題を分析し、議論する力や論文にまとめる力を磨くことができました。多種多様なバックグラウンド、興味関心をもつゼミ生との日々の活動は、包括的な視点から研究テーマを掘り下げ、将来の進路についても考える機会を与えてくれました。主体性が重んじられる奥島ゼミでは、ディスカッションの準備や合宿の計画、独立・卒業論文の執筆まで、学生が自ら率先して取り組んでいくことになります。ここでの経験は、高い自己管理能力が求められるアメリカの大学院や職場で生き残る上で、大きな支えになりました。そして、何事にも妥協を許さないゼミ仲間は、在学中のみならず、今でも互いに切磋琢磨できる大きな財産です（ゼミＯＢ、26 期）。

（本ゼミは、国際総合学類で長く開講されているゼミであり、企業、官公庁、大学などに多数のゼミＯＧＯＢがいます）。

亀山ゼミ（適応情報処理研究室）

システム情報系　教授　亀山啓輔

1. ゼミナールの概要

当研究室では環境や状況に適応してアルゴリズムやモデルを変更していく情報処理様式について研究を行っています．人間をはじめとする生物には，限られた情報処理資源を利用して，試行と失敗を繰り返し，時には世代を超えて問題を解決していく能力があります．このようなプロセスを「適応情報処理」様式ととらえ，基盤となる学習，最適化，信号処理の理論をふまえて，適応的なパターン認識，信号・画像処理，検索アルゴリズムを提案，実世界の問題を解決していくための研究を行っています．

当研究室では，(a) 機械学習，パターン認識，画像工学に関連する英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」，(b) 機械学習に関連する基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」，および (c) 一人一人異なる研究テーマに関する教員との個別ディスカッション(通年隔週)の3つを中心に研究を進めます．

2. 開講曜時限

(a) 研究ゼミ　　月曜日　18:15 – 20:00, @ 3F815
(b) 基礎ゼミ　　火曜日　18:15 – 20:00, @ 3F815
(c) 個別ディスカッション　　日時相談の上，おおむね隔週実施　@ 3E102-1

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

機械学習，データ解析，メディア処理のいずれかに興味があり，学類開講の数理科学I, II，情報科学I，II，統計科学，情報メディア概論，データ解析等の科目の扱う範囲の知識が（それなりに）ある人が適しています．プログラミングスキル，またはそれを修得する意思は必要．英語で書かれた論文を読める／読めるようになる意思があること．定員：各学年2名

当ゼミでの専門ゼミナール履修を希望する人は，下記連絡先にメールで連絡をください．面談を行い希望する研究テーマについて聞き取りを行います．10月，11月の研究ゼミ，基礎ゼミにはゲスト参加を歓迎します．10月中に，国際総合学類生，情報科学類生向けの研究室説明会を実施します．説明会のスケジュールについては当研究室のウェブページを参照してください．

選抜スケジュール

- 10 月-11 月：　ゼミ見学，研究ゼミ＆基礎ゼミゲスト参加期間
- 12 月前半：　教員による面談期間
- 12 月末：　次年度ゼミ生を決定

4. その他

Web : http://adapt.cs.tsukuba.ac.jp,
E-mail : keisuke.kameyama@cs.tsukuba.ac.jp

Adaptive Information Processing Group

白川ゼミ（河川／水環境）

筑波大学システム情報系　准教授　白川直樹

1. ゼミナールの概要

河川や水環境に関するテーマを研究します。具体的には，川の環境や生態系の保全と改善，洪水災害に強い社会のあり方，川を活かした地域づくり，川と水の文化などを対象にします。各自の個人研究に関する議論のほか，共通する課題に取り組むグループワークなどを行います。

2. 開講曜時限

春ＡＢＣ＋秋ＡＢ＋集中，毎週２コマ

令和９年度の開講曜時限はゼミ生の履修状況を考慮して決めます。

ゼミは大学院生や他学類生（主に工学システム学類）と合同にて実施します。全体ゼミと班ゼミをわせて週２コマの出席が必要です。全体ゼミは全員によるグループワーク，班ゼミは少人数に分かれて各自の研究テーマの議論を行います。

3. 履修要件

履修要件は特にありません。文系／理系は問いません。

4. 入ゼミの方法

まず教員へ連絡して面談してください。面談ののち，ゼミ参加を希望する場合は，希望理由を文書（メール）にて提出します。希望理由と準備状況により入ゼミの可否が判断されます。

ゼミ見学は行いません。

5. 選抜スケジュール

2026年12月18日（金）：面談期限（遅くともこの日までに時間を決めて面談すること）
2027年 1月 8日（金）：ゼミ参加希望受付締切
2027年 1月15日頃までにゼミ参加可否を教員から通知します。

6. その他

将来は河川や水環境に関わる仕事をしたい（海外／国内を問わず）という気持ちのある学生を受け入れます。

この分野は，文系出身からも大学院へ進み，技術系の職に就くことが可能です。技術職を目指したい学生には，理系科目の学修計画や補講などを指導します。

面談，質問など：shirakawa.naoki.gf@u.tsukuba.ac.jp
研究室：3F105（第３エリアＦ棟１階）

鈴木ゼミ（多知覚メディア処理）

筑波大学システム情報系准教授　鈴木大三

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、人間の知覚特性に基づくメディア情報処理について研究します。画像や映像を中心とした知覚メディアを対象に、信号処理や機械学習を用いて、解析・圧縮・保護・理解・表現に関する研究を行います。研究テーマは、各自の興味や適性を踏まえて設定します。

ゼミ生は、多知覚メディア処理研究室の一員として、情報科学類・情報理工学位プログラムの学生とともに活動します。週例報告や研究ゼミを通じて、論文調査、アルゴリズムの検討、プログラム実装、実験・評価、発表などに取り組み、研究の進め方を学びます。

2. 開講曜時限

【週例報告】

教員と1対1で、前回からの進捗や次回までの予定について毎週報告します。

【研究ゼミ】

進捗報告、論文紹介、発表練習、質疑応答などを行います。
横田ゼミと合同で実施します。

【＋α】

「研究室に来ること」から生まれる偶然の出会いや発見（セレンディピティ）も大切です。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

【履修要件】

- ✓ 主体的に研究を進められる
- ✓ 自発的に学ぶ意欲がある
- ✓ 報告・連絡・相談を適切に行える
- ✓ 研究活動に必要な日本語でのコミュニケーションができる

※線形代数・微積分・プログラミング（MATLAB、Python、C言語等）に関する基礎知識を配属までに少しずつ身に付けておいてください。

【選抜スケジュール】

- ✓ 10月　　：説明会および公開ゼミ（詳細は研究室HP参照）
- ✓ 11～12月：個別説明・面談（希望者はメールでご連絡ください）
- ✓ 12月末　：配属者決定

4. その他

- ✓ E-mail：taizo@cs.tsukuba.ac.jp
- ✓ HP　　：https://www.wmp.cs.tsukuba.ac.jp

高橋ゼミ（ヒューマンコンピュータインタラクション）

筑波大学システム情報系教授　高橋伸

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)に関連する研究を行います。HCIは利用者の側に立った情報技術、社会における情報技術のあり方を探る研究分野です。

セミナーにおいては、ヒューマンコンピュータインタラクションやソーシャルコンピューティングに関わる基礎的文献調査、評価実験などを中心に研究を行います。まずは関連する文献や国際会議論文を多数読むところから始め、自分の興味のある対象を見つけてもらいます。ゼミは基本的に週１回で、曜日時間はメンバー決定後の要相談となります。

2.　開講曜時限

春 ABC 秋ABC の期間に週1回１～２コマ相当時間のゼミを行います。開講曜時限は参加者のスケジュールを調整して決定します。

3. 履修要件・入ゼミの方法/選抜スケジュール

履修要件は特にないですが、ゼミは毎回出席が義務であり、無断欠席が続く場合は単位取得を認めません。ゼミ参加希望者には面接を行うので、メールで連絡してください。

選抜スケジュール：
10 月～11 月末：ゼミ見学・面談等受付
12 月：ゼミ参加希望受付
12 月末：選抜結果連絡

4. その他（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

メール：shin@cs.tsukuba.ac.jp
HP: http://www.iplab.cs.tsukuba.ac.jp/~shin

Simona Vasilache Seminar (Software Engineering)

Simona Vasilache, Assistant Professor, Grad. School of Systems and Inf. Engineering

1. Introduction

This seminar will answer questions like: "What is software engineering?" "Can I become an engineer if I study it?" "Am I going to write software?" "Can I become a programmer?" "Is there any difference between a computer scientist, a software engineer and a programmer?"
Such are the questions that can be asked and answered during the seminar.
(Definition of SE: engineering discipline concerned with all aspects through which software is developed)

In trying to understand software engineering and as a first step towards finding their own research topic, students will read various articles and materials, and discuss them during seminars, which will be a forum for exchanging ideas. Everybody can (and must) express what they think! Round-table style discussions will be held, and, as discussions go, they may start with a certain topic and reach a very different one.

Moreover, students will all have the opportunity to gain experience in understanding and writing academic papers in English, as well as practice their presentation skills.

2. Semester, period and venue

Adjusted based on everyone's availability
(2026 AY: Tuesdays, 15.30~)
SB1014 (総合研究棟B, 10th floor, room SB1014)

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

#No particular prerequisites for this seminar

Contact the instructor by email (before Dec. 20) → Individual meeting with instructor / Seminar visit (Dec.-Feb.) → Final notification of selection results (Feb. 26)

4. Additional information

E-mail contact: simona@cs.tsukuba.ac.jp

フィールドロボティクスゼミ

筑波大学システム情報系准教授　藤井浩光

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは，実環境で活動するロボットやセンシングシステムを対象として，フィールドロボティクス，ロボットビジョン／コンピュータビジョン，3次元計測，センサ信号処理，マルチセンサ融合に関する研究を行います．応用例として，移動ロボット，建設機械，インフラ点検，災害対応，環境計測などを扱います．カメラ，LiDAR，距離センサ，音・振動などのセンサ情報を用いて，実環境を計測・認識し，ロボットの自律移動，作業支援，遠隔操作支援につなげる方法を検討します．

ゼミでは，日本語・英語文献の講読，研究テーマに関する調査，データ取得，プログラム実装，実験評価，発表を通して，独立論文・卒業論文に向けた研究の進め方を学びます．固定の教科書は定めず，各自の研究テーマに応じて，ロボット工学，画像処理，機械学習，センサ信号処理，HCI，フィールド調査に関する論文・資料を指定します．必要に応じて，Python，ROS 2，Linux，Gitなど，情報科学・ロボティクス分野で用いられる基礎的な開発ツールの使い方も扱います．成績評価は，出席，文献紹介・進捗報告，議論への参加，研究活動への取り組みに基づいて行います．

2. 時限

春AB・秋ABを中心に，週1回のゼミを実施します（隔週で全体ミーティングと個別ミーティングを交互に実施）．必要に応じて，実験，発表練習，学会参加など集中形式の活動，個別面談を行います．曜日・時限・教室は，ゼミ生の人数や履修状況を踏まえて決定します．多くの場合，情報科学類の学生や大学院生と合同で実施しています．

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件として，ロボット，センシング，画像・信号処理，データ解析，AI，実環境における技術応用のいずれかに関心があることを求めます．数理科学，情報科学，統計，プログラミングの基礎を学んでいることが望ましいですが，入ゼミ時点で十分でない場合も，自主的に補う意思があれば相談に応じます．英語論文を読む必要があるため，英語文献に取り組む姿勢も求めます．

入ゼミを希望する学生は，事前にメールで連絡し，面談を受けてください．面談後，自己紹介，関心のある研究テーマまたは技術・応用分野，これまでに履修した関連科目，プログラミングや実験の経験，留学・休学予定の有無をA4で1枚程度にまとめてメールで提出してください．選抜は，提出メモ，面談内容，研究テーマとゼミ内容との適合性，定員を踏まえて行います．

【スケジュール】

- 10月～12月　：教員訪問・面談・ゼミ見学期間
- 12月　　：ゼミ参加希望受付
- 12月末　　：選抜結果連絡

4. その他

- 連絡先　　：fujii@cs.tsukuba.ac.jp
- 研究室Web　：https://www.rsa-lab.org/

不明な点がある場合や，研究内容が自分の関心に合うか確認したい場合は，メールで相談してください．現時点で研究テーマが明確に決まっていなくても構いませんが，技術を用いてどのような実環境の課題を扱いたいかについて，自分なりに考えておいてください．

松原康介ゼミ（都市計画・都市史）

筑波大学システム情報系准教授　松原　康介

1. ゼミナールの概要

都市計画、とくに海外の都市計画や都市の歴史について、共同作業を通して学ぶゼミです。世界中に存在する歴史ある都市空間を、いかにして現代の生活の中で継承し、活かしていくことができるかについて考えます。

指導教員は中東・北アフリカ地域を専門とし、モロッコ、シリア、フランスに留学経験がありますが、地域的な関心は自由で、現在、多くの国に留学した、あるいは留学中のゼミ生がおり、それぞれの都市での生活体験に根差した研究を展開しています。教員やゼミ生が留学先を訪問し、現地ゼミを開くこともあるかもしれません。

毎年夏にはゼミ合宿を兼ねた３年生主体の「大学生観光まちづくりコンテスト」などへの参加（2023年度は準グランプリを受賞！）を通じて、現地調査とチームワークの精神を学びます。

参考までに、2024年度の卒業生の研究テーマは、「モロッコ都市遺産の復興計画」「パリの交通空間形成史」「東地中海の都市空間形成-クロアチアを中心に」などです。

2.　開講曜時限

毎週月曜・金曜の13：30：16：00に開講

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

中東・北アフリカを初めとするフランス語圏の都市に関心がある方、あるいは将来、都市計画を自分自身の職能として、国際的に活動する分野の仕事に就きたい方を歓迎しています。

留学希望者にはゼミとしても全面的に支援しています。指導教員が担当しているのはモロッコのアル＝アハワイン大学（総合）、パリのラ・ヴィレット建築大学（建築・都市史）、モンペリエ第三大学（地理・歴史）です。また、大学院進学希望者は優先的に入ゼミ頂きます。１年間の交換留学を経て４年で卒業し、大学院修士課程の２年間の社会工学の専門教育と就職活動を通して、都市の国際協力に関する広い視野と、都市研究を基本とする専門性を兼ね備えた人材として社会に出て頂きたいと思っています。

文理融合型の研究を進めますが、国際総合学類の学生は、海外への視点や行動力、あるいは語学などの強みを活かしています。数学は必須ではありませんが、実際に都市を歩いて、建築や空間を見る目をしっかりと養います。技法として、GIS（地理情報システム）、フォトショップ、イラストレーター等を習得します。また、入ゼミ後、社工共通の都市計画関係の実習科目や世界遺産専攻等の関連科目を履修頂きます。

ゼミ見学は随時受け付けています。ご希望の際は、教員あてにメールでご相談ください。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

教員連絡先：matsub@sk.tsukuba.ac.jp

ゼミHP ：http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~matsub/

研究室Twitterアカウント：https://twitter.com/matsub_pro

研究室Facebookページ：https://www.facebook.com/groups/371902826224617/

横田ゼミ（コンピュータグラフィックス）

筑波大学システム情報系 特任助教 横田壮真

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは，コンピュータグラフィックス (CG)，特に物理ベースレンダリング (Physically-Based Rendering: PBR) に関する研究を行います．PBR は，ゲームや映画などのエンタテインメント分野をはじめとして，様々な産業に応用されています．本ゼミでは，特に，写実的なマテリアルの表現論，PBR の高速化に着目した研究などを行います．

2. 開講曜時限

通年を通してゼミを開講します．また，一部開講曜時限はゼミ生と相談のうえ決定します．
以下のゼミを予定しています:

- 研究ゼミ: 研究の進捗報告，論文紹介などを行います【鈴木ゼミと共催，毎週開催】
- 基礎ゼミ: 数学，物理学，プログラミングなどの学習を行います【毎週開催，2 コマ程度】
- 週例報告: 教員との 1 on 1 で，研究の困りごとなどに個別対応します【毎週開催，20 分程度】

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

【履修要件】

- コンピュータを用いた写実的な画像・映像の描画技術に強い関心があること【必須】
- 数学，物理学（特に光学），プログラミングを学ぶ意欲があること【必須】
- CUDA などを用いた GPU プログラミングの実装経験があること【歓迎】
- 文系・理系のどちらも歓迎しますが，研究には数学，物理学，プログラミングを使用します

【入ゼミの方法】

面談を行い，入ゼミの可否を判断します．下記連絡先から面談の連絡をしてください．また，研究室の雰囲気を掴むために，説明会及び公開ゼミへの参加をお勧めします．

【選抜スケジュール】

- 10 月: 説明会及び公開ゼミ (詳細は下記研究室 HP を参照)
- 11-12 月: 個別説明・面談
- 12 月末: 配属者決定

4. その他 （例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

- 連絡先

  E-mail: yokota@cs.tsukuba.ac.jp
  個人 HP: https://somayokota.me/
  研究室 HP: https://www.wmp.cs.tsukuba.ac.jp (多知覚メディア処理研究室)
- ゼミの開講曜時限・形態に関しては，入ゼミされた方と相談のうえ，柔軟に対応する予定です．
- 難しい分野ですが，手厚くサポートしていきたいと考えています．少しでも興味のある方は，まずはご連絡をいただけると嬉しいです．